

奨励賞



設計者

堀越英嗣

■ 東京建築士会、(株)堀越英嗣 ARCHITECT 5

寺院・仏閣 (宗教施設)

愛知県豊川市市田町

正願寺

構造・階数

木造、一部鉄筋コンクリート造
鉄骨造(本堂)、地上1階建て

敷地面積

6,153.21㎡

建築面積

1,467.33㎡

延床面積

1,224.90㎡

竣工

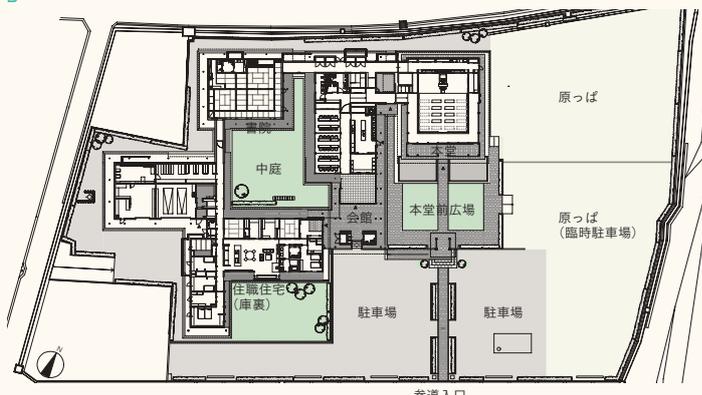
平成 24 年 3 月 15 日



A



B



配置・平面図

選評

愛知県に新しく建てられた正願寺は浄土真宗大谷派に属し、五百数十年の歴史を持っている。かつての宗教空間は、その行事を通して日常生活と深く結び付き、人々の生活の中心として多様な絆やコミュニティが生まれる場であった。老朽化した寺院の再建ではあるが、そのような寺の持つ本質的システムを取り戻し、次の時代へとつなげる寺院のあり方を提案している。

伽藍配置は宗教軸となる南北軸に沿って、山門、アプローチ、本堂へと続く。本堂前の広場には水盤が敷かれている。バリアフリーのため、斜路が池を二分し、水盤が地面より高くなっている。水の納め方が建築に緊張とやわらぎを与える。安定した美しさを持つバランス感が建物の外観を良くも悪くもする。

建物は4つの棟からなり、本堂、西側に会館、書院、庫裏が

配されている。しかし、本堂と会館の間の余白が少ないためなのか、本堂の大屋根に伸びやかさが見られなかった。また、東側の空地となる原っぱが未完成なのか、少し物足りなさを感じる。しかし、原っぱから見た外観は、入母屋造りの民家の屋根の美しさが表現された新しい寺院の姿があり、好感が持てた。

本堂は鉄骨造で2本のアーチ状のキールが架けられ、木造の垂木が屋根を支えている空間は安心感があり、阿弥陀如来立像と対峙したとき、空間に緊張感が醸し出される。

新しいあり方を求めた寺院は、時代を超えて地域から求められている寺院となり、地域における存在感はコミュニティ施設としての役割を十分果たすだろう。住職、檀家、設計者の姿勢が生み出した秀作の寺院建築である。 (竹原義二)



C



D



E

- A 本堂内観。屋根は鉄骨と木材のハイブリッド構造。2本のアーチ状のキール梁が架けられ、米松の垂木が屋根を支えている
 - B 本堂前の広場と水盤
 - C 本堂外観。茅葺き民家がもつ柔らかな膨らみと、歴史的な寺院の入母屋の形態を併せもつ
 - D 本堂内観。鉄骨の柱と透明ガラスで空間に広がりをもたせている。正面に見える無双建具の襖は開口部をさまざまに変化させる。また、多目的に本堂が利用されることを想定し、ご本尊が前後に移動する機構を組み込むなどの工夫も施されている
 - E キール梁によるアーチ屋根とOMソーラーの切妻の合成による、新しい入母屋の東側外観
- 写真撮影…小川重雄